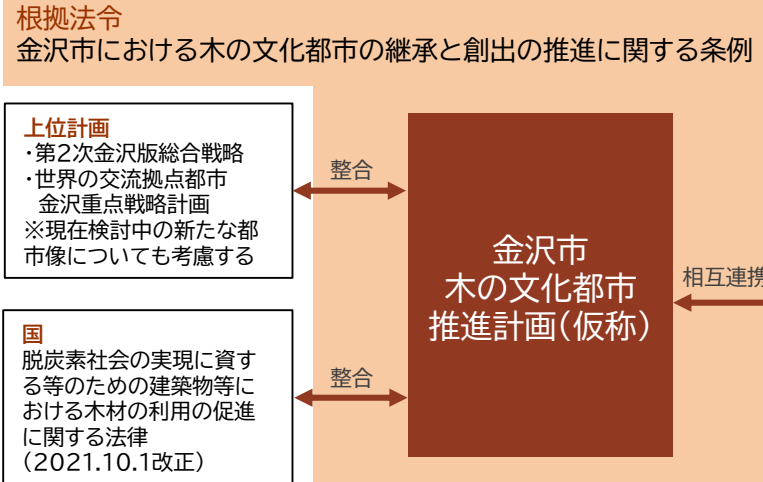


## 1.概要

歴史・自然・文化と調和した金沢ならではの木の文化都市の実現を目指して、金沢市における木の文化都市の継承と創出の推進に関する条例に基づく、「金沢市木の文化都市推進計画」を策定します。

### 【本計画の位置づけ】



分野	計 画 等
森林	金沢市森づくり基本方針
森林	森からはじまる金沢のミライ
工芸	金沢KOGEIアクションプラン
産業	金沢市ものづくり戦略2015
文化	金沢市歴史的風致維持向上計画
文化	金沢市文化財保存活用地域計画
まちづくり	金沢市景観計画
まちづくり	金沢市緑のまちづくり計画
公共施設	金沢市公共建築物・公共土木工事等における木材利用方針
公共施設	金沢市公共施設等総合管理計画
環境	金沢市環境基本計画
環境	金沢市地球温暖化対策実行計画
耐震	金沢市建築物耐震改修促進計画

### 【計画期間】

令和5(2023)年度から令和14(2032)年度までの10年間とします。

## 2.「木の文化」とは

### (1)「木の文化」の定義

「木の文化」とは、「木」が作り出す自然環境や建物、工芸品などの「木の質感」を感じさせるものを、まちなみや生活に幅広く取り入れることによってつくられる文化のことです。

建物やまちなみだけではなく、生活のなかで触れることのできる工芸品やストリートファニチャー等も、木の文化に含まれます。

#### 「木の文化」に含まれるもの

- ・木造建築(伝統工法、在来工法、新工法)
- ・木の装い(木材を用いた建築物の内外装)
- ・木工品(木を用いた工芸品、家具、道具、生活用品など)
- ・公共空間における木造品(ストリートファニチャーやゲートなど)
- ・樹木(街路樹、敷地内樹木、庭園、緑地、森林)

### (2)「木の文化都市」の定義

「木の文化都市」とは、「木」が持っている環境や人に優しいという優れた特徴を、まちづくりに生かし続けることができる都市のことです。

具体的には、以下のように「木」が持つ特徴を生かす都市とします。

#### 「木の文化都市」とは

- ・「木」にこだわり、まちの随所に「木」があるまち
- ・「木」がくらしや生業に溶け込んだまち
- ・「木」が供給から活用まで循環するまち

## 3.エリア別のまちづくり方針

基本方針(4.施策の体系参照)に基づき、施策を進める推進エリアを定めます。

### 【推進エリアの考え方】

推進エリアは金沢市全域とし、大きく二つのエリアに区分します。  
そのうち①まちづくりエリアについて、施策に応じた3つの区域を設定します。

#### ①まちづくりエリア

おおむね市街化しており、建築物や公共空間、人の営みに関してまちづくりとして取組を進めるエリア

##### a.木の文化創出区域

木造の中高層、大規模建築物などの木の文化を創出する新たな取組を促す区域

##### b.木の文化継承区域

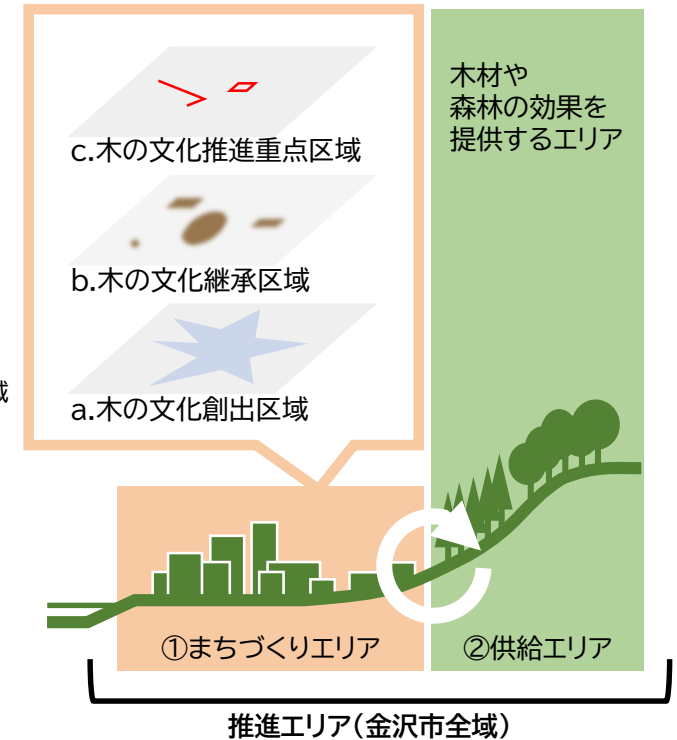
歴史的建築物や歴史的なまちなみの保全など木の文化の歴史文化を継承する区域

##### c.木の文化推進重点区域

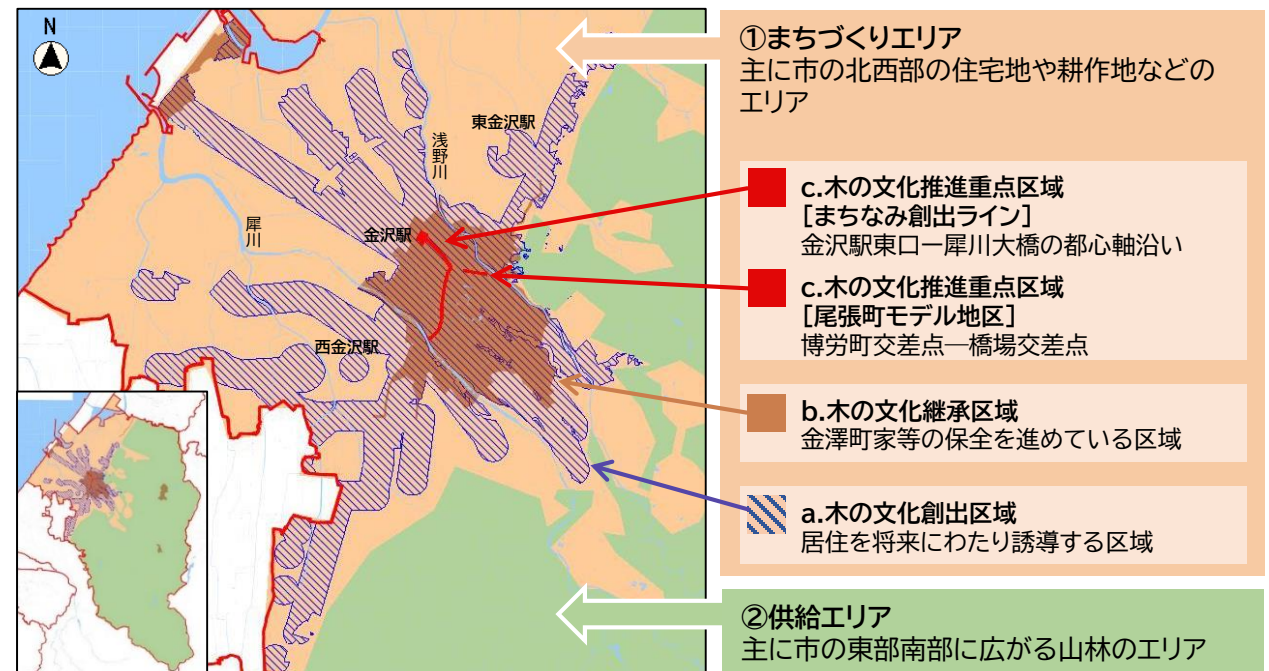
特に集中的に木の文化都市の実現に向けた取組をおこなう区域

#### ②供給エリア

森林等が中心で、新鮮な空気や水、木材や様々な森林資源、またレクリエーションやリフレッシュの場を供給するエリア



### 【推進エリアの範囲】



4. 施策の体系

目指す姿 木の文化を感じられる暮らしとまちをつくる

▼基本方針

継承  
うけつぐ

金沢の歴史と文化に根ざした  
木の文化を継承する

創出  
つくる

新たな木の文化を創出する

▼施策の方向性

1. 木の文化を知る・理解する

▼具体的な取組

(1) 木の文化について情報を発信する

▼取組の内容

ア) 市民、事業者らに広く木の文化の情報を発信し理解を広める  
イ) 次世代に木の文化を発信する

(2) 木材や森林などに触れる機会を提供する

ア) 市民、事業者らに木材や森林に親しむ機会を提供する  
イ) 次世代が木材や森林に親しめる機会を提供する

2. 木を仕事にする、  
日々の暮らしに活用する

(1) 木に関わり、仕事にする

ア) 木の文化を継承・創出する担い手を育成する  
イ) 森を活かし、まちとつなぐ担い手を育成する  
ウ) 木の文化を支える様々な分野の仕事をつくる

(2) 木をつかった製品・工芸、技術を  
事業活動に取り入れる

ア) 製品やサービスなどの事業活動に木を取り入れるよう促す  
イ) 新たな木を活かした製品・工芸を創出する

(3) 木をつかった製品・工芸、技術を  
日々の暮らしに取り入れる

ア) 木をつかった製品・工芸、技術への理解・関心を深める  
イ) 木をつかった製品・工芸を日々の生活や職場に取り入れるように促す

3. 木をつかった建物や  
空間をまもる・つくる

(1) 木の文化をつたえる建築物や空間を継承する

ア) 歴史的建築物の保全と活用及び歴史的まちなみを保全する  
イ) 歴史的な庭園など緑を保全する

(2) 民間施設などでの木の利用を促進する

ア) 民間施設などの中高層・大規模建築物の木造化を促進する  
イ) 民間施設などにおいて、内外装の木質化など木が感じられる環境整備を促進する  
ウ) 木の文化を感じることができる住宅の建築を促進する

(3) 市の施設において積極的に木を利用する

ア) 市の施設の木造化を進める  
イ) 市の施設で内外装の木質化など、木が感じられる環境を整備する  
ウ) 市の施設で利用する備品などに木材を積極的に利用する

(4) 公園や街路などの公共空間に木を活かす

ア) 緑(樹木)を感じられる公共空間をつくる  
イ) 公共空間に木の質感を取り入れる

4. 森とまちの好循環をつくる

(1) まちと暮らしを支える森を整備する

ア) 森林の整備保全を進める  
イ) 持続可能な森のサイクルを確立する

(2) 森の恵みを積極的に活用し、  
森を循環的に更新する

ア) 地域産材などの木材需給体制を充実する  
イ) まちに森の恵みを活かす  
ウ) 新しい林業の仕組みを創出する

5. 木の文化を担う主体が  
つながり、ともに推進していく

(1) 木をめぐる関係者の連携を進める

ア) 専門家の意見を活かし、新たな推進体制を構築する  
イ) 川上から川下までの情報連絡・連携を進める

(2) 産学官が連携し、木の文化の推進に取り組む

ア) 事業者らと連携し、ともに推進する  
イ) 大学・研究機関と連携し、ともに推進する

(3) 広く関係自治体と連携し、木の文化を推進する

ア) 先進自治体や周辺自治体と連携し、ともに推進する  
イ) 国・県と連携し、ともに推進する